

在シドニー総領事通信

第 11 回 オーストラリアの新型コロナウイルスへの対応

令和 2 年（2020 年）3 月 25 日

今、新型コロナウイルスへの対応は、世界全体の課題です。在シドニー日本国総領事館は、所掌している約 3 万 7 千人の在留邦人、そして多数の渡航邦人の安全を確保するために、在豪他公館や豪政府など関係者と連携しながら、オーストラリアの新型コロナウイルスへの対応をはじめ邦人に影響を与える情報を把握し、日本語で広く発信しています。

状況は日々変化しており、昨日は、豪州を含む世界各国での渡航制限や国際線フライトの大幅な減便・運休の状況に鑑み、観光等で一時的に滞在中の方や、日本に早期帰国の必要がある方等は、早めの出国をご検討くださいとの領事メールを配信しました。

今回は、これまでのオーストラリアの新型コロナウイルスへの対応について説明するとともに、仕事の中で感じたことを皆様にお伝えしたいと思います。



オーストラリア保健省の新型コロナウイルス対策全国キャンペーン

オーストラリア政府は、3 月中旬を転機に、一連の大胆な措置を次々と決定し、発表してきました。13 日（金）は、連邦首相と州首相・地域首席大臣の合議体である豪州政府評議会（Council of Australian Governments, COAG）で、国家

内閣（National Cabinet）の立ち上げを決定しました。翌 14 日（土）、オーストラリア保健省は新型コロナウイルス対策全国キャンペーンを早速開始しています。

15 日（日）には、歴史的な国家内閣初会合を開催し、直後のモリソン首相記者会見で、同日深夜 24 時から、海外から豪州への全ての渡航者に対して 14 日間の自己隔離措置を義務づけることを発表しました。

17 日（火）にも国家内閣会合を開催し、18 日（水）朝の首相記者会見では、豪州人への海外渡航中止勧告や、学校の開校継続など一連の重要な措置を発表しました。

19 日（木）の国家内閣会合直後の首相記者会見では、20 日（金）21 時（豪州東部夏時間）から、豪州国民・永住者とその直接の家族を除く全ての人の入国を禁止すると発表しました。

22 日（日）昼の首相記者会見で、必要不可欠でない国内旅行の中止等が発表され、同日晚の国家内閣会合を受けての首相記者会見では、バーやパブの閉鎖、レストランやカフェの持ち帰り・宅配限定などの措置が発表されました。

24 日（火）の国家内閣会合直後の首相記者会見では、閉鎖対象施設を拡大した他、グループでの活動や必要でない外出は避け、個人宅への来客も最小限に抑え、BBQ 等の私的パーティーも行わないよう求めました。

一連の国家内閣会合では、新型コロナウイルスの悪影響を回避するための経済・社会対策等も決定・発表されました。多岐にわたる情報は、連邦政府の新型コロナウイルス特設ウェブサイトにも、わかりやすい形で集約されています。

ベレジクリアン NSW 州首相やガーナー北部準州首席大臣も、この国家内閣会合の決定を踏まえ、それぞれ記者会見を頻繁に開いて、学校の運営や入域規制など、NSW 州・北部準州の各々の事情に即した具体的な措置を発表しています。

連邦と各州・地域の首相・首席大臣がこれほどの頻度で会合を開催し、決定・発表を行うのは前代未聞のことです。今後もこのような決定・発表は続く見込みです。



閉鎖されたシドニーのボンダイ・ビーチ（3月22日撮影）

一連の決定や発表をフォローしていて特に強い印象を受けたことは、オーストラリア政府の取組を貫く力強い基本戦略とその発信です。

モリソン首相は、3月18日（水）の記者会見の冒頭で、新型コロナウイルスは第一次世界大戦以来の100年に1度の出来事（a once in a hundred year type event）であり、今後6ヶ月以上継続するとの前提で、幅広く実施可能（scaleable）かつ持続可能（sustainable）な措置をとることが重要と述べていました。短期的に厳格な措置をとっても、緩めたとたん再燃するので意味がないと幾度も応答していました。

19日（木）の記者会見の冒頭では、自分達の戦略は現在から6か月以上後の回復期までの間に「橋をかける（build a bridge）」ことであり、その間は豪州の生活や経済への悪影響は避けられないものの、再起できるようにするための一連の措置を実施するとの意図表明がありました。

更に、20日（金）の記者会見の冒頭で、皆が各自の役割を果たすことでオーストラリアという国と社会の機能を維持し、今後6か月以上続く難局を乗り切ることで、更に強くなるとのビジョンを提示しています。

22 日（日）昼の記者会見では、2 日前にシドニーのボンダイ・ビーチに多数の海水浴客が集まったことは問題であり（not okay）、現状は極めて深刻である（It is deadly serious）ことを強調しました。同日夜の記者会見では、社会的距離の確保（social distancing）は我々の最も重要な武器の一つ（one of our most important weapons）であり、その遵守を強く訴えました。

翌 23 日（月）のベレジクリアン NSW 州首相、ガーナー北部準州首席大臣の記者会見も、それぞれの州・地域が置かれた状況を踏まえ、後から振り返って後悔することのないよう、厳しい措置を取る必要があることを、誠心誠意語りかけていました。



シドニー市内ローズベいの夜明け前（3 月 18 日）

このようなオーストラリアの指導者からのメッセージを聞き、そして世界や日本の状況や対応を見るにつけ、新型コロナウイルス問題は、世界の叡智を結集するとともに、各国が適切な戦略を策定し、国民と効果的なコミュニケーションを取りながら対策を実施していくことが重要と感じています。

その中で、モリソン首相が訴えるとおりの、私たちが各自の役割を果たすことが大

事です。私たち一人一人の行動で、命を救い、経済を支えていかなければなりません。

在留邦人の皆様をはじめ日本とオーストラリア、そして世界全体が苦難を乗り越え、橋の向こうの世界、新たな夜明けにたどり着くために、私も全力で取り組みたいと考えています。関連情報へのリンクを末尾にとりまとめましたので、参考にいただければ幸いです。

【日本語ウェブサイト用のリンク】

豪新型コロナウイルス特設ウェブサイト（英語）

<https://www.australia.gov.au/>

豪首相ウェブサイト（記者会見議事録、報道発表を掲載）（英語）

<https://www.pm.gov.au/>

NSW 州新型コロナウイルス特設ウェブサイト（英語）

<https://preview.nsw.gov.au/covid-19>

北部準州新型コロナウイルス特設ウェブサイト（英語）

<https://coronavirus.nt.gov.au/>

豪政府の新型コロナウイルス対策概要（在豪日本国大使館作成）

<https://www.au.emb-japan.go.jp/files/100023087.pdf>

当館の新型コロナウイルス最新情報（トップページ）・特設ウェブサイト

https://www.sydney.au.emb-japan.go.jp/itprtop_ja/index.html

https://www.sydney.au.emb-japan.go.jp/itpr_ja/consul_coronavirus.html

（以上）